

設例2-2:

- ①条件緩和の内容:元本支払い繰延べ
- ②複数シナリオごとの発生確率をそれぞれ見積もる計算例
- ③デフォルトするシナリオの発生確率が合計で48%の場合

前提条件	
契約元本	: 10,000 百万円
担保評価額	: 2,000 百万円
非保全部分	: 8,000 百万円
年間返済額	: 1,000 百万円
当初約定金利(加重平均)	: 2.0%
緩和後約定金利	: 2.0%
デフォルト時の非保全部分からの回収率	: 5.0%

基本(約定スケジュール)

(単位:百万円)

		X1年 3月31日	X2年 3月31日	X3年 3月31日	X4年 3月31日	X5年 3月31日	残債
返済計画	元本			1,000	1,000	1,000	7,000
	利息	200	200	200	180	160	
当初約定利率に基づく現在価値係数		1.02	(1.02) <sup>2</sup>	(1.02) <sup>3</sup>	(1.02) <sup>4</sup>	(1.02) <sup>5</sup>	(1.02) <sup>5</sup>

- ※元本返済はX2年まで据置と仮定(年度末払い)
- ※利払いは毎年1回後払い(年度末払い)と仮定
- ※再建計画が条件緩和後5年間(X5年まで)あるものと仮定
- ※再建計画完了後のX5年末には、その時点での債務者区分に応じて適切な条件で再設定される

シナリオ1(注1)

(単位:百万円)

発生確率 : 26%

		X1年	X2年	X3年	X4年	X5年	残債
契約上の将来キャッシュ・フロー	元本			1,000	1,000	1,000	7,000
	利息	200	200	200	180	160	
残債のキャッシュ・フロー							6,650
回収キャッシュ・フローの合計		200	200	1,200	1,180	1,160	6,650
当初約定利率に基づく現在価値係数		1.02	(1.02) <sup>2</sup>	(1.02) <sup>3</sup>	(1.02) <sup>4</sup>	(1.02) <sup>5</sup>	(1.02) <sup>5</sup>
回収キャッシュ・フローの現在価値		196	192	1,131	1,090	1,051	6,023
現在価値計							9,683
発生確率加重後の評価額							2,518 (a)

シナリオ2(注1)

発生確率 : 26%

		X1年	X2年	X3年	X4年	X5年	残債
契約上の将来キャッシュ・フロー	元本			1,000	1,000	1,000	7,000
	利息	200	200	200	180	160	
残債のキャッシュ・フロー							6,300
回収キャッシュ・フローの合計		200	200	1,200	1,180	1,160	6,300
当初約定利率に基づく現在価値係数		1.02	(1.02) <sup>2</sup>	(1.02) <sup>3</sup>	(1.02) <sup>4</sup>	(1.02) <sup>5</sup>	(1.02) <sup>5</sup>
回収キャッシュ・フローの現在価値		196	192	1,131	1,090	1,051	5,706
現在価値計							9,366
発生確率加重後の評価額							2,435 (b)

シナリオ3(注1)

発生確率 : 16%

		X1年	X2年	X3年	X4年	X5年	担保・残余財産処分
契約上の将来キャッシュ・フロー	元本			1,000	1,000	1,000	2,250
	利息	200	200	200	180	160	
回収キャッシュ・フローの合計		200	200	1,200	1,180	1,160	2,250
当初約定利率に基づく現在価値係数		1.02	(1.02) <sup>2</sup>	(1.02) <sup>3</sup>	(1.02) <sup>4</sup>	(1.02) <sup>5</sup>	(1.02) <sup>5</sup>
回収キャッシュ・フローの現在価値		196	192	1,131	1,090	1,051	2,038
現在価値計							5,698
発生確率加重後の評価額							912 (c)

シナリオ4(注1)

発生確率 : 32%

		X1年	X2年	X3年	X4年	X5年	担保・残余財産処分
契約上の将来キャッシュ・フロー	元本			1,000			2,350
	利息	200	200	200			
回収キャッシュ・フローの合計		200	200	1,200			2,350
当初約定利率に基づく現在価値係数		1.02	(1.02) <sup>2</sup>	(1.02) <sup>3</sup>			(1.02) <sup>3</sup>
回収キャッシュ・フローの現在価値		196	192	1,131	-	-	2,214
現在価値計							3,734
発生確率加重後の評価額							1,195 (d)

債権評価額(シナリオ1~4の合計)	(e)=(a)+(b)+(c)+(d)	7,059 (e)
貸倒引当額	(f)=契約元本-(e)	2,941 (f)
貸倒引当率	(g)=(f)÷契約元本	29% (g)

発生確率合計 : 100%

注1: 当該債務者と同一の行内格付けの格付け遷移分析等により、以下のようにシナリオと各シナリオの発生確率を設定した。

- シナリオ1: 再建計画終了後、正常先に復帰するシナリオ。発生確率26%。残債については、正常先の総与信額に対する予想損失率を5%と仮定して、それを控除して評価している。
- シナリオ2: 再建計画終了後、その他要注意先まで改善するシナリオ。発生確率26%。残債については、その他要注意先の総与信額に対する予想損失率を10%と仮定して、それを控除して評価している。
- シナリオ3: X5年度の元本と金利支払い後にデフォルト(ここでは「破綻懸念先以下となる場合」を想定)状態となるシナリオ。発生確率16%。デフォルト時の回収見込額としては、担保価値(2,000百万円)並びにデフォルト時の非保全部分からの回収見込額(250百万円)の計2,250百万円と見積もっている。
- シナリオ4: X3年度の元本と金利支払い後にデフォルト(ここでは「破綻懸念先以下となる場合」を想定)状態となるシナリオ。発生確率32%。デフォルト時の回収見込額としては、担保価値(2,000百万円)並びにデフォルト時の非保全部分からの回収見込額(350百万円)の計2,350百万円と見積もっている。